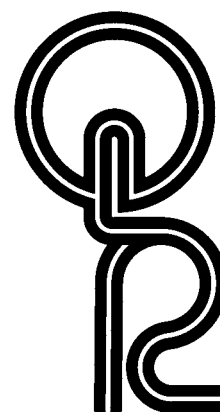


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 19 No.3, 2012



千葉県南房総市白浜町に露出する海底地すべり堆積物（池原 研撮影）
この露頭では、海底地すべりに伴う移動により乱雑に堆積した見事な
海底地すべり堆積物が観察できる（Yamamoto et al., 2007. Island Arc,
16, 505-507）。第5回国際海底地すべりシンポジウムのポスト巡検では、
この露頭を前に国内外の研究者が議論した。

Vol. 19 No. 3

June 1, 2012

2012 年大会案内・・・・・・・・・・	2	国際会議案内・報告・・・・・・・・	10
猿橋賞・学生会員継続届け・・・・・	8	福井洞窟発掘調査・・・・・・・・	11
三宅賞・・・・・・・・・・・・・・・・	8	幹事会議事録・・・・・・・・・・	11
研究助成案内・・・・・・・・・・・・・	9	会員消息・・・・・・・・・・・・・	12

◆日本第四紀学会 2012年大会案内（第3報）

日本第四紀学会 2012年大会が以下の予定で開催されます。多数の皆さんのご参加をお願いいたします。

1. 大会名称

「熱い討論 第四紀学会 2012年大会 in 立正大熊谷（立正大学開校 140周年記念）」

2. 日時・開催場所

2012年8月20日（月）～8月22日（水）

立正大学熊谷キャンパス・アカデミックキューブ（埼玉県熊谷市万吉 1700）

○立正大学熊谷キャンパスへのアクセス

熊谷駅（JR 高崎線、新幹線、秩父鉄道）南口より国際十王バス立正大学行、立正大学下車（10分 270円）。または森林公園駅（東武東上線）北口より国際十王バス立正大学行または熊谷駅行、立正大学下車（12分 340円）。バスの時刻表など詳細については立正大学ホームページからご覧下さい（http://www.ris.ac.jp/guidance/cam_guide/index.html）。自家用車で来場される方は、学生駐車場をご利用下さい。

○宿泊 熊谷駅周辺にホテルがあります。宿泊の予約は各自でお願いします。なお若手発表者に限り学生寮の宿泊申し込みを受け付けますので、希望者は発表申込書に記入して下さい。

アクセスマップ



キャンパスマップ



3. 関連行事も含めた大会日程

- 8月19日（日） 特別講演会（於：埼玉県立川の博物館）
- 8月20日（月） テーマセッション・一般セッション・評議員会
- 8月21日（火） テーマセッション・一般セッション・総会・懇親会
- 8月22日（水） 公開シンポジウム及び普及活動
- 8月23日（木） 巡検

4. 共催学会等（テーマセッションの共催、申請中を含む）

日本地質学会、日本火山学会、日本鉱物科学会、日本文化財科学会、日本地形学連合、埼玉県立自然の博物館、埼玉県立川の博物館

5. 後援

立正大学（開校 140周年記念事業）

6. 申し込み

発表申し込み締め切りは2012年6月25日（月）です。詳細は「12. 申し込み詳細」を参照のうえ、

- ①発表申込書、②講演要旨原稿のそれぞれを、指定メールアドレス（[jaqua2012\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2012(at)gmail.com)）に送信、

または行事幹事（出穂雅実）に郵送して下さい。

○郵送先：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京5号館335号室 出穂雅実

○大会参加費として、会員・非会員を問わず2,000円を申し受けます。会場受付でお支払い下さい。ただし、70歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。

○講演要旨集は、会場で直接販売いたします。（1冊2,000円の予定）

○懇親会に参加される方は申し込みをお願いします。

日時：8月21日（火）午後6時から（予定）

会場：立正大学熊谷キャンパス ステラ食堂

参加費：5,000円、学生は3,000円（予定）（会場受付でお支払い下さい）

申し込み方法：ホームページ及び第4報（プログラム発表）でお知らせします。

○巡検（8月23日（木））申し込み方法：ホームページ及び第4報でお知らせします。

○学生寮宿泊申し込み

立正大学熊谷キャンパスには学生寮（ユニデンス）があり、学外者も利用可能（1泊目3,000円、2泊以降割引）です。人数が限られますので、若手発表者に限り受け付けます。希望者は発表申込書に記入して下さい。6月25日（月）締め切りです。

7. 特別講演会「現存する日本の氷河 北アルプス立山連峰」

趣 旨：7月14日（土）～9月2日（日）まで埼玉県立川の博物館で開催されている平成24年度特別展「今だって氷河時代—埼玉からさぐる気候変動—」の関連講演会として開かれます。

主 催：埼玉県立川の博物館、共催：日本第四紀学会

日 時：8月19日（日）

場 所：埼玉県立川の博物館（埼玉県大里郡寄居町小園39）

講 師：福井幸太郎（立山カルデラ砂防博物館）

講演題目：「現存する日本の氷河 北アルプス立山連峰」

講演内容：今年、立山連峰にある3つの雪渓（三ノ窓雪渓、小窓雪渓、御前沢雪渓）が、立山カルデラ砂防博物館の調査により、日本で初めて現存する「氷河」であると学術的に認められました。日本にも氷河が存在するということは、日本が今まさに「氷河時代」である証拠ともいえます。立山連峰に複数存在する雪渓のうち、これらの雪渓が、改めて「氷河」と認められたのはどうしてでしょうか。なぜ立山連峰には氷河があるのか、また氷河と認定されるために必要な条件とはなにか、そしてその条件を満たすためにどのような観測を行ったのか、ご紹介いただきます。

問い合わせ先：埼玉県立川の博物館（担当杉内）（Web <http://www.river-museum.jp>）

TEL：048-581-7333 FAX：048-581-8739

E-mail：Web-master(at)river-museum.jp

8. 講演発表

本大会は8月20日（月）～8月21日（火）の2日間、テーマセッションと一般セッションの2会場で並行して講演発表を行います。テーマセッションは他学会との共催で行います。講演の募集内容は次の通りです。皆様奮っての発表申し込みをお待ちしております。日本一暑い熊谷で熱い討論をしましょう。

(1) テーマセッション（テフラ・年代測定）

広くテフラと年代測定に関する研究発表を募集します。サブテーマ名、コンビーナー、内容は以下の通りです。

a. テフラの生成と拡散・災害：万年一剛（神奈川県立温泉地学研究所）

内容：テフラマグマの発生、噴火、拡散、災害等に関連した研究（レビューを含む）発表の申し込みを募集します。

b. テフラの地質学：長橋良隆（福島大学）

内容：テフラ（層）対比による陸（成層）と海（成層）との接続とその意義、地形形成史や厳密な同時対比等に係るテフラの堆積・再堆積作用、テフラ層から読み解く噴火様式と爆発的噴火史、長期爆発的火山活動史とテクトニクスなど、テフラの同時堆積性を利用した地形・地質学あるいはテフラから読み解く地質学に関するあらゆる研究発表を期待します。

c. 関東内陸部の第四紀地形変化とテフロクロノロジー：鈴木毅彦（首都大学東京）

内容：関東地方の内陸部には、第四紀火山・活断層・山地斜面・丘陵・河成段丘・沖積低地が発達します。これらはそれぞれに独自の活動史・形成史をもち、その編年は同地域に分布するテフラにより高精度に構築することができます。本セッションでは、関東内陸部の第四紀地形変化をテフロクロノロジーの立場から見据えた口頭発表・ポスター発表を広く募集します。また、最新の実証データを中心とした研究発表のみならず、上記テーマに関するレビュー・問題提起なども歓迎します。

d. 考古学におけるテフラの多面性の利用：早田 勉（火山灰考古学研究所）、栗畑光博（都城市）

内容：考古学的手法を利用した噴火災害史研究（被災過程と人々の対応行動の復原）を中心に考古学に関連した広範囲の研究発表を期待します。

e. テフラの年代測定の新展開：奥野 充（福岡大学）、山田和芳（早稲田大学）

内容：テフラは火山噴火史の編年のみならず、短時間に広域に分布する特性から、地形・地史編年に活用されてきており、様々な年代測定法の対象としても重要な役割を果たしています。このセッションでは年代測定とテフラをキーワードとして、年代測定法の高精度化・高分解能化、適用試料の検討、年代域の拡大について議論します。特にテフラを介した複数の方法間でのクロスチェックも重要でしょう。

f. その他：福岡孝昭（立正大学）

内容：a～eのサブテーマに含まれないテフラ・年代測定に関する研究

(2) 一般セッション

テーマセッションに含まれない第四紀研究の研究発表を例年の通り、広く募集します。

9. 公開シンポジウム「氷床コア等から得られる第四紀環境情報」

趣 旨：日本第四紀学会は、最新の地質時代である第四紀の自然環境と人類について研究する者が集まった学際的な学会です。例年、夏の研究大会に併せてシンポジウムと普及活動が行われており、今年度は8月22日（水）に埼玉県立の立正大学で行われます。シンポジウムは学会員及び市民を対象として南極氷床コアから得られた最新の学術成果を紹介し、普及活動は児童・生徒と保護者を対象として南極一般を紹介する予定です。これらは、研究者による研究成果を社会に還元するための、学会によるアウトリーチ活動の一環として行われます。

シンポジウムの講演は、国立極地研究所の全面的な協力のもとに行います。普及活動は児童・生徒と保護者を対象としているために、短い講演と体験活動を組み合わせて行います。その体験活動には、南極の氷に触れることのほかに、南極の昭和基地との中継（予定）を行い、児童・生徒に南極を身近にとらえてもらうことを目的とします。

日 時：8月22日（水） 10:00～14:30（シンポジウム）、15:00～16:30（普及活動）

場 所：立正大学熊谷校舎 A101 教室

共 催：埼玉県立川の博物館

(1) シンポジウム 10:00～14:30

世話人：福岡孝昭（立正大学）

プログラム（予定）

1. 趣旨説明：福岡孝昭（立正大学）
2. 南極や北極の氷河・氷床掘削：本山秀明（国立極地研究所）
3. 過去の水の安定同位体比は何を示すか？：植村 立（琉球大学）
4. 氷床に閉じ込められた空気が語る過去の温室効果ガスと気候の変動：川村賢二（国立極地研究所）
5. 両極の氷床コアから復元された過去数十万年のエアロゾル変動：東 久美子（国立極地研究所）
6. グリーンランドの温度変動から見る過去4000年の北半球気温変動：小端拓郎（国立極地研究所）
7. ベリリウム10からみた過去の宇宙線強度変動と宇宙線層序学：堀内一穂（弘前大学）
8. 氷河・氷床に含まれる花粉を利用した研究について：中澤文男（国立極地研究所）
9. 南極氷中の火山灰・宇宙物質：福岡孝昭（立正大学）

(2) 普及活動 15:00～16:30

世話人：植木岳雪（産業技術総合研究所）

プログラム（予定）

1. 南極ってどんなところ……………講演者調整中
2. 南極ってどうやって調べるの……………講演者調整中
3. 南極の氷にさわってみよう
4. 昭和基地との中継
5. 今日の昭和基地の様子
6. 今回の越冬隊の研究について
7. 児童・生徒からの質問

10. 巡検「荒川上中流域の地形と地質（仮題）」

日程：8月23日（木） 日帰り

案内者：田村俊和、井上素子、楡井 尊ほか

内容、詳細は第4報以前に、6月上旬ころまでに学会ホームページに掲載し、メーリングリストを通してお知らせします。第4報送付と巡検申し込み締め切りとがきわめて接近する可能性がありますので、HPやMLにご注意下さい。

11. 大会実行委員会

実行委員会委員長：福岡孝昭

連絡先：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学地球環境科学部 福岡孝昭研究室 2012年大会実行委員会事務局
 大会用 E-mail : jaqua2012(at)ris.ac.jp
 TEL/FAX : 048-539-1640

お問い合わせは出来るだけ大会用 E-mail でお願いします。「発表申込書」および「講演原稿」の送信先アドレスとは異なりますのでご注意ください。

12. 申し込み詳細

今回は2会場制で、テーマセッションと一般セッションがあります。テーマセッションは「テフラ・年代測定」というタイトルで開催します。テーマセッションではいくつかのサブテーマを設けてそれぞれコンビーナーを依頼しています。サブテーマ名、内容、サブテーマコンビーナー名は 8. 講演発表 を参照して下さい。

(1) テーマセッション（「テフラ・年代測定」）の発表申し込み

●発表者の資格と発表件数の制限

テーマセッションは共催学会の会員も発表できます（招待講演については、会員、共催学会員でなくても発表できます）。発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者は、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表が可能です。本会会員の場合は、プログラム編成上、一般セッションとテーマセッションをあわせて筆頭発表者としては口頭1件、ポスター1件までとします。

テーマセッションに申し込む場合は、はじめにテーマセッションにチェックして下さい。口頭発表およびポスター発表がありますので、発表申込書にあるサブセッション名と、口頭またはポスターから希望する方を選択して下さい。発表件数によっては、必ずしも希望の発表形式にならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、内容によってはサブセッションを変更させて頂く場合もあります。

口頭発表の時間は1件15分程度（質疑応答時間を含める。招待講演についてはより長い時間の場合もあります。）を予定しています（発表件数によって変更の可能性があります）。十分な説明や討論を希望する方にはポスター発表への申し込みをお勧めします。またポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

(2) 一般セッションの発表申し込み

●発表者の資格と発表件数の制限

一般セッションには、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者（資格は会員であること）は、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表が可能です。

●発表の形式と発表時間

一般セッションでは、申込書の口頭発表またはポスター発表から希望する方を選択し、記入して下さい。発表件数によっては、必ずしも希望の発表形式にならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

口頭発表の時間は1件15分程度（質疑応答時間を含める）を予定しています（発表件数によって変更の可能性があります）。十分な説明や討論を希望する方にはポスター発表への申し込みをお勧めします。またポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

(3) 若手発表賞へのエントリー

本会会員で大会時39歳以下の方は、一般・テーマにかかわらず若手発表賞にエントリーすることができます。エントリー希望の方は、申込書の若手発表賞エントリー欄の該当箇所に記入して下さい。積極的なエントリーを期待しております。授賞式は懇親会で行います。

(4) シンポジウム依頼講演者の講演要旨の送付方法および締め切り

シンポジウムはすべて依頼講演形式とします。シンポジウム依頼講演者の方は、「(6) 講演要旨原稿の書き方」にしたがった形式のPDFファイルを、専用アドレス (jaqua2012(at)gmail.com) へて、電子メールの添付ファイルでお送り下さい。メールの題名およびファイル名は「シンポジウム講演要旨：筆頭発表者名」として下さい。6月25日（月）までに上記の行事担当幹事までお送り下さい（締め切り厳守）。原稿枚数は2ページでお願いします。

(5) 一般講演、テーマセッション申込者の講演要旨の送付方法及び締め切り

「(6) 講演要旨原稿の書き方」にしたがった形式のPDFファイルを、専用アドレス (jaqua2012(at)gmail.com) へて、電子メールの添付ファイルでお送り下さい。メールの題名およびファイル名は「セッション（サブセッション名：筆頭発表者名）」として下さい。6月25日（月）までに上記の行事担当幹事までお送り下さい（締め切り厳守）。原稿枚数は一般セッション2ページ、テーマセッションは1～2ページです。

(6) 講演要旨原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用して下さい。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にして下さい。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名（所属）、英文著者名・表題の順に書いて下さい。和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて（左端から4.0cm）左詰めで書いて下さい。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて左詰めで続けて下さい。

和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いて下さい。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて右詰めにして下さい。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いて下さい。

英文著者名・表題は和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「:」でつないで書いて下さい(所属は不要)。

本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めて下さい。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安として下さい。不明な場合は昨年の要旨集を参考にして下さい。本年も同一仕様です。ワープロ使用の場合は濃く印字して下さい。

手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いて下さい。手書き図表の場合には黒インクを使用し原稿用紙に直接描くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼って下さい。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようにご注意下さい。印刷時にA4の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで必ずスケールを入れて下さい。

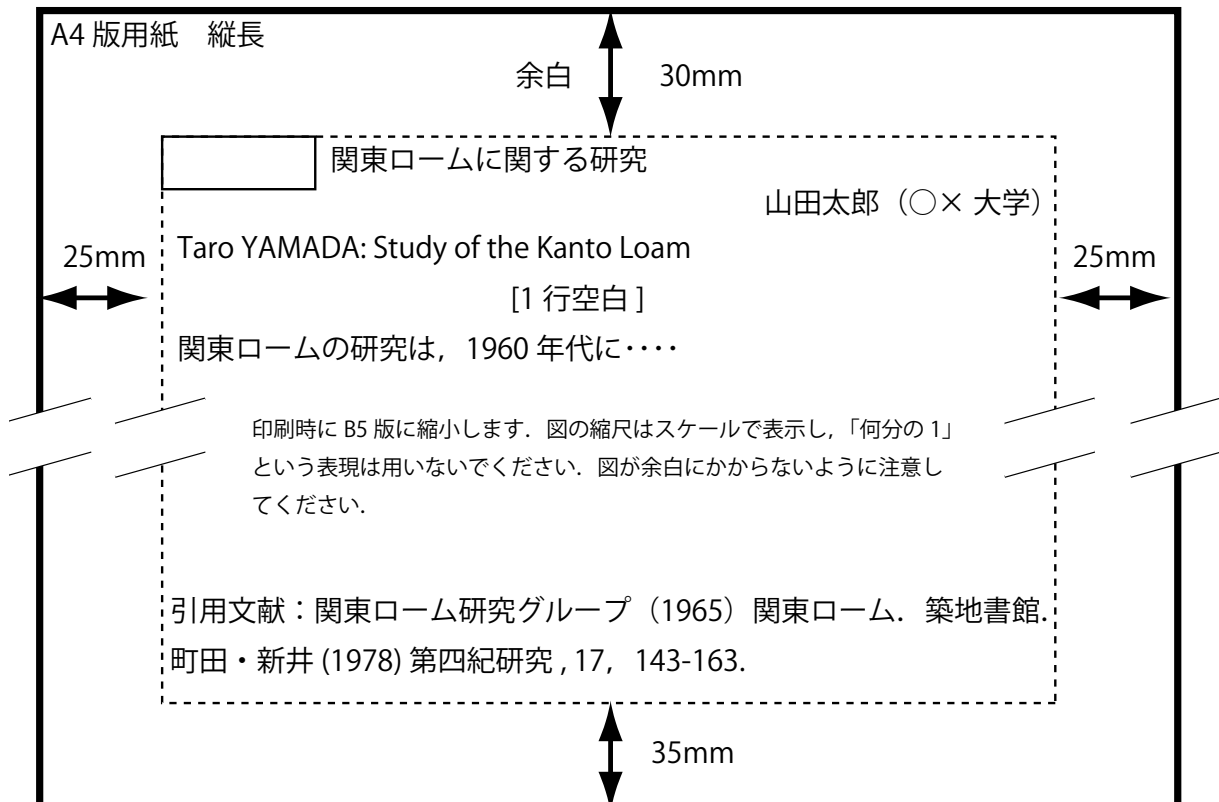
講演要旨原稿をメールの添付ファイルにする場合は、必ずPDFファイルに変換してお送り下さい。

(7) 講演要旨執筆上の注意

2012年4月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして、以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、これらに照らし合わせて問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まないこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか(2005)第四紀研究, 44, 371-381.」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他、当学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

講演要旨の書き方の例



2012年第四紀学会発表申込書

(電子メールの添付書類で下記の内容を送信すれば本申込書は郵送不要)

氏名・所属			
講演題目			
筆頭発表者の連絡先	〒 e-mail : TEL : FAX : (非会員の方の場合, 所属学会を記入ください:)		
希望の発表セッション	() 一般セッション	() テーマセッション (サブセッション名:)	
希望の発表形式	()	()	()
	口頭発表	ポスター	どちらでも可
若手発表賞のエントリー	()	()	学生寮宿泊希望
	口頭発表	ポスター発表	有 ・ 無
「講演要旨執筆上の注意」を理解し, その内容を遵守するならば, 以下に氏名を入力して下さい.			
私 () は, 「講演要旨執筆上の注意」を理解し, その内容を遵守します.			

◆阿部彩子会員が猿橋賞を受賞

猿橋賞は、「女性科学者に明るい未来をの会」（1980年創立）が、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者に、毎年贈呈しています。

本年度の受賞者は、本会評議員の阿部彩子会員（東京大学大気海洋研究所准教授、受賞研究題目「過去から将来の気候と氷床の変動メカニズムの研究」）が選ばれました。阿部会員の受賞をお祝い申し上げます。（幹事会）

詳細は以下をご覧ください。

<http://www.sarunashi.net/index.html>

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2012年度（2012年8月1日～2013年7月31日）を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙（様式自由・ワープロ使用）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教員氏名を明記のうえ、指導教員の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを**2012年7月31日（火）までに日本第四紀学会事務局まで郵送して下さい**。本届が提出されない場合は、2012年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意下さい。

なお、2011年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合せ・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号

新宿ラムダックスビル10階 日本第四紀学会事務局

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com

TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176

提出方法：郵便に限ります。

◆地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

2012年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者を募集します。当協会会員及び関連諸学会によるご推薦の何れでもお受けします。下記の要領でご応募下さい。

地球化学研究協会理事長 兼岡一郎

1. 三宅賞

対象：地球化学に顕著な業績を挙げた研究者

表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金30万円、毎年1名

2. 奨励賞

対象：1972年4月2日以降に生まれた方で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者

表彰内容：賞状および賞金10万円、毎年1～2名

3. 応募方法

地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績などを記入し、主な論文10編程度（三宅賞）、2編程度（奨励賞）を添えて、下記のあて先へ送付して下さい。

応募書類等は三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ用いられます。

4. 締切日：2012年8月31日（必着）

5. 地球化学研究協会ホームページ：

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/index.html>

6. 応募書類送付先：〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5

三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ

（公益信託）地球化学研究基金 榑崎則久

7. 問合せ：電子メールで下記アドレスへお願いします。

E-mail: eitaro1939(at)yahoo.co.jp または t-sagi(at)m3.gyao.ne.jp

◆パレオ・ラボ 若手研究者を支援する研究助成の募集

1. 助成の趣旨

弊社では、平成 16 (2004) 年 10 月に年代測定を目的として ^{14}C 測定専用の加速器質量分析計を導入し、年代測定業務を開始いたしました。これを機に、企業として社会に還元するため、また広く弊社 AMS 年代測定をご利用いただくため、若手研究者を対象として研究支援事業を開始し、このたび第 8 期の研究助成を企画いたしました。

2. 応募条件

- 1 現在 35 歳以下の研究者（定職についていない方）および大学院生（考古学分野 2 名、自然科学分野 2 名）
- 2 年代測定を必要とする研究テーマであること
- 3 過去に研究発表 1 本または論文 1 編以上を発表した者
- 4 原則として、助成終了後 1 年以内に研究助成の内容を含む論文または口頭発表を公表すること（発表内容を示す論文・口頭発表内容要旨を提出）
- 5 研究助成の内容を含む発表および論文執筆の際、パレオ・ラボ若手研究者を支援する研究助成によるものであることを明記すること

3. 支援内容

以下の 2 項目を支援いたします。

- 1 研究費として 15 万円を支給（採用 1 ヶ月後に指定口座に振り込み）
- 2 AMS 年代測定 10 試料を無料測定
ただし、測定期間は下記の期間限定
平成 24 (2012) 年 9 月 1 日～平成 24 (2012) 年 10 月 31 日
および平成 25 (2013) 年 4 月 1 日～平成 25 (2013) 年 8 月 31 日

4. 支援期間

平成 24 (2012) 年 9 月 1 日～平成 25 (2013) 年 8 月 31 日（測定期間は限定されます。ご注意ください。）

5. 応募方法

申し込み用紙（弊社指定用紙をダウンロード→<http://www.paleolabo.jp/jyosei.html>）、履歴書（書式なし、写真添付）、研究実績表（書式なし）を郵送

郵送先 〒501-6264 岐阜県羽島市小熊町島 5-63 アルビアル羽島 1F パレオ・ラボ東海支店 研究助成担当

6. 応募締め切り

平成 24 (2012) 年 7 月 31 日（必着）

7. 選考方法等

弊社顧問（2 名）が選考し、審査結果は申請者に書面にて通知する。

備考

研究内容等の個人情報は、外部に漏れないように厳重に管理いたします。

助成を希望される方は、弊社の試料処理または AMS 年代測定の精度等を十分理解していただくことが必要です。予めホームページをご覧ください、不明点については弊社の試料処理担当および測定担当にお問合せください。

お問い合わせ先 jyosei(at)paleolabo.jp

もしくは 058-391-0881 研究助成担当まで（なるべく E-mail をご利用ください）

◆ 3rd Asia Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance dating のお知らせ

下記のとおり、来る2012年11月に、ESR・ルミネッセンス年代測定関連国際会議の開催を計画しております。日本第四紀学会の皆様にも、ぜひとも御参加いただければ幸いです。

会議名：3rd Asia Pacific Conference on Luminescence and Electron Spin Resonance dating
期 日：2012年11月18日（日）～22日（木）
会 場：岡山理科大学50周年記念館
趣 旨：第四紀の年代測定法として広く用いられるようになってきているルミネッセンス、ESR年代測定法を中心に、その手法の進展及び応用に関する研究発表を行い、アジア太平洋地域特有の問題について議論する。
発表要旨・早期参加登録締切：7月30日
主 催：岡山理科大学地球惑星環境研究センター
（私立大学戦略的基盤形成支援事業「鉱物の物理化学的特性から読み取る地球、惑星の環境変遷史」）
協 賛：日本第四紀学会ほか
問合せ・連絡先：岡山理科大学理学部 豊田 新 E-mail：toyoda(at)dap.ous.ac.jp

※詳細は下記をご覧ください。

<http://www.rins.ous.ac.jp/eps/theme/symposium.html>

◆ 第5回国際海底地すべりシンポジウム開催報告

産総研 池原 研

日本第四紀学会が後援した標記国際シンポジウムが昨年秋に開催されたので、遅まきながら報告する。海底地すべりは近年注目されている自然災害である。海底地すべりでは、破壊的な津波が発生あるいは増幅する可能性がある。このような例として、1979年フランス・ニース海上空港建設に伴う崩壊、2006年パプアニューギニアでの局所的な津波、2009年台湾南西沖での海底ケーブル破断事故等があり、2011年東北地方太平洋沖地震でも海底地すべりの影響が議論されている。このような背景の下、2011年10月24日～26日の3日間にわたり、京都大学芝蘭会館にて標記国際シンポジウムが開催された。これはIGCP-585の下で2年に1回開催されているものであり、日本はもとよりアジアで初めての開催となる。シンポジウムは、16の国と地域から136名の参加者を得て、成功裏に終了した。シンポジウムでは、国際地す

べりコンソーシアム代表の佐々恭二京都大学名誉教授を始めとした7件の招待講演と51件の口頭発表、46件のポスター発表、3つのパネルディスカッションが行われた。また、シンポジウムの前後に2つの巡検が行われた（表紙写真）。口頭発表と一部の招待講演、パネルディスカッションの内容はSpringer社から論文集「Submarine mass movements and their consequences」として刊行されている。750ページを越える冊子であり、国内外の海底地すべりに関する最新の科学的成果が収録されている。第四紀学会の会員にとっても、海底地すべりを理解する上で有用な情報源となるであろう。通販で14,000円程度であるが、シンポジウム組織委員会で多少の在庫を有しており、送料込み10,000円でお分けすることができる。希望者は池原まで問い合わせられたい。

◆佐世保市福井洞窟発掘調査について

佐世保市教育委員会より学会あて、以下の案内がありました。

佐世保市では、史跡福井洞窟の整備事業に伴い、発掘調査を実施することとなりました。発掘調査では、昭和30年代の調査区を利用して、高さ6mに及ぶ土層剥取りや古環境分析等を実施し、今後の史跡整備に活用してまいる所存でございます。

(中略)

つきましては、考古学をはじめとする学術研究発展のため、ぜひ発掘調査中にご来訪いただき、調査につきまして、ご意見等を賜りたいと存じますので、ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、ご高配賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

1. 史跡名 福井洞窟
2. 調査期間 平成24年2月～7月(予定)
3. 場所 佐世保市吉井町福井
4. 問合せ先 佐世保市教育委員会社会教育課 教育文化係 文化財班
TEL 0956-24-1111(内線3126)
FAX 0956-25-9682
e-mail: syakai(at)city.sasebo.lg.jp

※詳細は下記をご覧ください。

<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/www/contents/1327379329825/index.html>
(国指定史跡『福井洞窟』発掘調査と見学ツアーについて「お知らせ」)

◆2011年度第5回幹事会議事録

日時：2012年3月31日(日)10:00～13:00

場所：早稲田大学教育学部1029会議室

出席者：遠藤、小野、竹村、久保、北村、三田村、長橋、岡崎、植木、出穂、須貝、兵頭、水野、奥村(学術会議)、中野(事務局)

(報告事項)

- 1) 学会への連絡・寄贈・配布物：8件。そのうち第5回ジオパーク国際ユネスコ会議式典への参加者を調整することとなった。また埼玉県立川の博物館特別展の後援依頼について、承認した。
- 2) 地球惑星科学連合の科研費成果公開促進費対応臨時委員会が開催され(3月15日：東大)、e-journal, open accessの国際誌刊行をめざし、9月の申請に向けて準備を進めていることが報告された。
- 3) 2011年度研究委員会活動と予算使用計画が各研究委員会から提出され、提案どおりの使用を承認した。
- 4) 学会賞・学術賞受賞候補者、論文賞・奨励賞受賞候補者、名誉会員候補者の選考が、各選考委員会によって現在進められており、連合大会時の評議員会(5月25日12:30～13:30)で審議、確定される。
- 5) 編集委員会を2月11日に開催し、3月31日午後にも開催予定。第四紀研究51巻1号を刊行し、2号は4月2日発行予定である。手持ち原稿は12編で、新規投稿が少ない。また学会HP掲載文書(投稿規定、執筆要項、送り状、保証書、著作権譲渡同意書)の差し替えと「投稿規定改定に伴う

補足説明」の新規掲載を実施した。あわせて第四紀通信19巻1号に補足説明を掲載した。徳島大会特集号「環太平洋の環境文明史」は、13編の論文(非会員責任著者の論文8編)を予定していて、51巻4号に掲載予定である。学会賞と学術賞受賞記念論文は、51巻3号に2010年度分の残り2編と2011年度分1編を掲載予定。編集書記の公募を行い、編集幹事を含む4名の幹事で選考を行い、後任者を決定した。

6) 2012年熊谷大会については、日程と発表申込の締切など簡単な案内を第四紀通信2号に載せることにし、詳細は4月下旬に会員メーリングリストとホームページで連絡し、第四紀通信3号に掲載することにした。

7) H23年度科研費の残予算で、東四国の自然を楽しむガイドブックを作成し、参加者へ配布した。

8) 教育アウトリーチ委員会メンバー間で、ジオパークに対する取り組みについて意見交換を行った。第四紀学会大会時の一般市民向け講演会、巡検、パンフレットの作成、各ジオパークの実態調査・第四紀学的な要素の抽出、ネットワークの構築などの必要性の提案がなされた。

9) ホームページを新しいレンタルサーバーに移行した。また第四紀通信2号編集を終了した。

10) 地球惑星科学連合が2011年に公益社団法人化された。連合大会のプログラムがほぼ確定した。現時点で明らかな発表者などを第四紀通信2号に掲載した。

11) 京都国際地理学会議(2013年)でのセッション

ンが、4種類設定されている（招待・一般・コミッション関係・ジョイント）がジョイントセッション提案は第四紀学会を含めて呼びかけ中で、4月以降受付開始である。

12) PAGES の Scientific Steering Committee (3月24～25日) 報告。次期 SSC 委員に東大横山さんを選出した。Young Science Meeting と Open Science Meeting が2013年2月にインドのゴアで開催される。IGBP の改変に伴い、PAGES の今後について議論する。

13) INQUA 名古屋大会組織委員会が3月31日午

後開催予定。INQUA の Committee などの委員に日本人が入り、強化体制ができつつある。

(審議事項)

1) 会員名簿の発行が予定より遅れているが、春恒社の責任において会員に発送することとした。

2) 大会 LOC メンバーと幹事会（行事・企画幹事、幹事長、会長・副会長）とで、4月上旬に大会の内容について詳細な打ち合わせを行うことにした。

3) 教育アウトリーチ委員会は特別委員会なので、委員長を決定するなど体制を明確にする必要性が指摘された。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸 (mhyodo(at)kobe-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学 内海域環境教育研究センター 兵頭政幸
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 FAX: 078-803-5757

広報委員：糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176